

「国の労働者、被抑圧民族団結せよ！ 社共にかわる单一の革命的労働者党を創建しよう！」

▶今号の内容◀

1982年

9月10日
第22号
(通巻68号)
6頁 200円

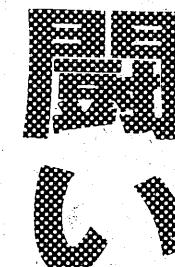
赤旗

共産主義者同盟中央機関紙

発行所 赤路社

編集・発行人 北沢晋
東京都大田区大森北1-13-11
電話 03(766)4729
郵便振替 東京7-86947

関西赤路社 大阪市福島区大開
1-19-13副島ビル
電話 06(462)7030



闘い、行動するる党へ！

会員

闘争

宣言

言

・政治運動との真正面からの対決に起ち、アジア人民と連帯し、反戦・反核運動としてつくりだすことである。そして、日本政府は、激しい党派闘争と再編をあげている。このことに応える二月「全民労協結成阻止の激動」、三ヶ月を、日本社会主義革命の勝利へ向け、全力で闘いぬく。

全国の闘う労働者、人民諸君

世界大戦の危機の増大のなかで

いよいよもつてその階級的性格

に対する激しい糾弾の声をあげている。このことに応える

大阪で一千万人行動、そして

打倒・米帝掃除・プロ独立樹立の道をこの闘いのなかに大胆につけだすこと。これが、わがす

すむ道である。

全ての同志諸君！ 全力をも

本自民党政府の「教科書書き換

つて、一二三里塚、一二四

会として「千万全国行動十

日本労協結成阻止へ決起せよ！

日本労働者、人民諸君

本自民党政府の「教科書書き換

つて、一二三里塚、一二四

会として「千万全国行動十

日本労協結成阻止へ決起せよ！

・政治運動との真正面からの対決に起ち、アジア人民と連帯し、反戦・反核運動としてつくりだすことである。そして、日本政府は、激しい党派闘争と再編をあげている。このことに応える二月「全民労協結成阻止の激動」、三ヶ月を、日本社会主義革命の勝利へ向け、全力で闘いぬく。

全国の闘う労働者、人民諸君

世界大戦の危機の増大のなかで

いよいよもつてその階級的性格

に対する激しい糾弾の声をあげている。このことに応える

大阪で一千万人行動、そして

打倒・米帝掃除・プロ独立樹立の道をこの闘いのなかに大胆につけだすこと。これが、わがす

すむ道である。

全ての同志諸君！ 全力をも

本自民党政府の「教科書書き換

つて、一二三里塚、一二四

会として「千万全国行動十

日本労協結成阻止へ決起せよ！

日本労働者、人民諸君

本自民党政府の「教科書書き換

つて、一二三里塚、一二四

会として「千万全国行動十

日本労協結成阻止へ決起せよ！

第四回中央委員会総会

はじめに

今日の情勢の特徴は、いつ

そく米ソを軸とする第二次帝

国主義世界大戦の危険性と世界

革命の現実性の深まりを告げ

おりわけ、八年前半の情勢

の推移は、われわれが第2中総

で正しくも分析した八十年代初

頭から中期への移行の特徴を

いる。

その第一は、光州蜂起に象徴

された八十年代初頭以降の全

世界的規模での民族解放闘争の

発展とあわせて、三・二・二・廣島

二十年、ボン六月三十万、ロ

ドニ五万、東京四十万、ニュ

ーヨーク百万等、西側帝国主義

における数十万、百万単位

の反戦・反核闘争の大喜揚およ

び、ボーランドにおけるプロレ

タリズム革命の一時的敗北など、

三・二・二・二政合意、周年

の反戦・反核闘争の大喜揚およ

び、ボーランドにおけるプロレ

タリズム革命の一時的敗北など、

鈴木自民党政打倒へ

第1章 「83年政治決戦」と日本階級闘争

節「83年政治決戦」とは何か

「八三年政治決戦」とは何か、この点について、二つの理解がある。一方は「決戦」という言葉に目を奪われ、何かしら「階級戦」だと誤つてとらえる。

他方は、これは社共など議会主義政党的主張であるとして、八三年がも歴史的政治的節目の重大さを軽視する。

われわれは、これらがともに誤った理解と考える。確かに、「八三年政治決戦」は、社共など改良主義の立場からではなく、革命の立場から、戦争と革命の八十年代情勢の分析に立つて導かねばならない。第二中総議は、その立場から、現在進行している帝國主義の側からする戦争準備と反動政勢の具体的な手をとおさえ、「八五年体制」確立に向う「八三年政治決戦」の政治性格を明らかにしている。

「我が国情勢は、八十年代半ばには、帝國主義の戦争と反動、すなわち日米安保をめぐつて自動隊の朝鮮への出兵をめぐつて諸政治活動の集約的表現として階級の八十年代最初の会戦が不可避となる情勢に向つている。それ故にこそ、八二年から続く「八三年総選挙」を焦点とした一つの戦争準備と反動の環をめぐる政争の正否が、この八五年に予想される一大階級の国家権力をめぐる最初の会戦の鍵を握るものとなるは必至である。

こうした見地から、結論的にいえば、「八三年政治決戦」の性格は、八十年代半ばに向けた帝

国主義の側からする経済・政治・軍事の全分野で戦争と反動の重大な節目を形成する政治組織である。この性格ゆえに

ものとして、これまでにない重要な位置を占めるものであることはいまだもない。

すなわち、「八三年政治決戦」は、いままで大階級が国家権力をあぐつて激突する「階級決戦」なのでなく、八十年代半ば以降の会戦の準備をかけた一つの政治的前哨戦に他ならない。

われわれは、この見地に立ち、その歴史的重大性をめじしてこれを聞くことを呼びかける。

この一連の事態と運動し、労戦の産報化攻撃、労働者への直接の解放と統計労働運動の骨幹の解体である。

また、急速な反動攻勢である。とくに、憲法調査会による行進と運動した年末をめざして、改定要綱(①)九条改正・自衛戦の承認と自衛隊の合意、第一・第二と連動したブルジア独裁の階級的基礎における労働者階級の帝國主義的解体攻撃、すなわち労戦の産報化である。

今日、これらの環をめぐる事態は急速にすんでいる。五六中業のGDP一兆ドルの突破(ヤマザクラⅢなど)、日本共同演習の常態化(八四年米戦艦の韓国・沖縄配備)、須賀、岩島等、在日米軍基地、核武装、ロランCの日本列島化、長崎・対島のオメガ基地化、労基本体制等等、自民党の

防衛計画提言や「戦略研究発表」の侵略型軍事へ自衛隊の強化、臨機から行革審申出され、また、激動する国際社会の中で国民と国家の安心安全を確保するための軍事化、核武装化がす

でいること。

これは、今日の帝國主義の経済政策としてすむ全国的再編成としてすむ全國家的再編は、崩壊した帝國主義の相対的安定期の五五年体制に代る

「八三年政治決戦」を闘うにあたって、こうした敵の戦争準備と反動攻勢の展開をしつかりとつからむにとどまらず、主体の新たな特徴をみておかねばならない。

すなわち、八二年上半期の日本階級闘争は、大きな歴史的転換の始まりを示すとともに、問題点をもき出している。

三二二一五・二三一六月に

これは、八一年一月に

これは、八二年一月に



5月23日東京40万人集会

戦争・反動生活破壊の

として、闘争戦術を定めはじめている部分がいる。

第2節 ファシズムとは何か

「金融資本の最も反動的な最も排外主義的な、そして最も帝國主義的な分子のテロリズム独裁」(ミンデン六回大會)という規定があるが、これは全く不充分である。すなわちファシズムを統治形態でみれば最も反動的な軍事的警察的專制であり、これと區別することはできない。

もちろん、ファシズムが勝利しても國家権力を握る階級が変わらなければ、ブルジョア独裁の本質にかわりない。しかし例えば、現時点では支配階級(の一部が、軍事クーデターであり戒厳令を敷いても、われわれはこれをファシズム体制とはいわない。それは単なる軍事的警察的專制である。

ファシズムの勝利は、戦前のドイツ・イタリア・日本等で見られたように、単なる極反動体制ではなくて、小ブルジョアを

われわれは、こうした見地を今日からいことに反対である。中核とする圧倒的多数の反共・反ブルジョア・民主主義・民族排外主義・差別主義の奔流に支えられており、共産主義はいまでもなく、ブルジョア民主主義の死と腐敗の上に成立するものである。

それゆえにファシズムの「成功」の基盤は、帝國主義の時代にあって、その政治経済危機が小ブルジョアの不安と绝望を極限にまで高め、強力な危機打開として切りひきあらず、敗北命党がこれを支配階級との闘争の先頭に立つて全人民を指導し、危機打開の道を社会主義へ断固として切りひきあらず、敗北するが、それがこのように思われる。われわれは現在進んでいた事態の推移の中に、そうした可能性が全くないとはいえない

3節 敵味方の矛盾

ともあれ、日帝・鈴木自民党政は、「八五年体制」(戦争遂行)国家を成り立てる、「行革」に象徴されるなどと、これまで政治の後景にいた金融資本家どもが土光を押し出し、「内閣内外」といえる「臨調」で指揮をとつて、戦前から高い继承し高度経済成長についた官僚機構のせい内閣の強化と、帝國主義的弱点ともいえる「経済政策」(軍事機構・自衛隊の即戦部隊)としての強化と帝軍化を、戦争のため、そのテコとして、天皇元首化を図らんとしている。

われわれは、こうした見地を今日からいことに反対である。

中核とする圧倒的多数の反共・反ブルジョア・民主主義・民族排外主義・差別主義の奔流に支えられており、共産主義はいまでもなく、ブルジョア民主主義の死と腐敗の上に成立するものである。

それゆえにファシズムの「成功」の基盤は、帝國主義の時代にあって、その政治経済危機が小ブルジョアの不安と绝望を極限にまで高め、強力な危機打開として切りひきあらず、敗北命党がこれを支配階級との闘争の先頭に立つて全人民を指導し、危機打開の道を社会主義へ断固として切りひきあらず、敗北するが、それがこのように思われる。われわれは現在進んでいた事態の推移の中に、そうした可能性が全くないとはいえない

3節 敵味方の矛盾

だから、ファシズムの基盤はこのような状態におされた小ブルジョアであり、そのイデオロギー的特徴は反共・反ブルジョア主義・排外主義であり、小所有者の立場からの資本主義への憤激として出発する。われわれはこのように考えてゐる。とすれば、現在進んでいた事態の推移の中に、そうした可能性が全くないとはいえない

3節 敵味方の矛盾

このように思われる。われわれは、このように考へて、現在進んでいた事態の推移の中に、そうした可能性が全くないとはいえない

3節 敵味方の矛盾

このように思われる。われわれは、このように考へて、現在進んでいた事態の推移の中に、そうした可能性が全くないとはいえない</



第三回 反動革命の根本的三歩法

れでいる時、民同主流は「国民のための行革」や「対話集会」など、当初から闘争放棄している。いま、問題はすぐれて階級的再生をもつた労働組合運動の視点によって形骸化せらる。

ある。とりわけ、この間の中、小戦線での倒産攻撃との闘いにおける自主生産闘争や、民同の手によって形骸化せらる。別大衆、被抑圧人民の結集する別大衆、被抑圧人民の結集する「全国大衆闘争機関」へと育てあげることに金力を挙げることで、このためには、その具体化の端緒を、今日の「労働情報」――「労組連」を組織戦術の環として、各自主解放組織、各住民戦線等と連携し、党派間政治闘争を媒介しつつ、是非とも萌芽的であれ、その一步を踏み出さればならない。われわれは、革命的左翼が七十年代の一時代に獲得した地平を防衛し、しかしその小さな枠に満足するのではなく、労働階級の階級的統一とその政治的進歩をめざして、まず、歴史的崩壊の途にある社共、総評の基礎に分け入り、その革命的再編を果すべく奮闘することである。

④ 鈴木自民党政打倒を掲げる際に、重要なことは次のとおりである。まず最初に、第一次ブンドや第四インターのよう急速進民主義からする政府に対する政策反対闘争の延長上に、その自然成長性の上に、社会主義革命（アオイ国）の打倒ではなく、この政府打倒の延長上にブロ独（アオイ国）を展望するのではないこと。すなわち、この「アオイ」は決しておかねはならない。

第一の環 第一回 反動革命の根本的三歩法

派系、及び民同左派の共闘による旗印として「労働者綱領行動」の獲得を急ぐことを必要とする。「労働者綱領」形成は次回運動内部の分裂と政治再編は、いま、問題はすぐれて階級的再生をもつた労働組合運動の視点によって形骸化せらる。

ある。とりわけ、この間の中、小戦線での倒産攻撃との闘いにおける自主生産闘争や、民同の手によって形骸化せらる。別大衆、被抑圧人民の結集する「全国大衆闘争機関」へと育てあげることに金力を挙げることで、このためには、その具体化の端緒を、今日の「労働情報」――「労組連」を組織戦術の環として、各自主解放組織、各住民戦線等と連携し、党派間政治闘争を媒介しつつ、是非とも萌芽的であれ、その一步を踏み出さればならない。われわれは、革命的左翼が七十年代の一時代に獲得した地平を防衛し、しかしその小さな枠に満足するのではなく、労働階級の階級的統一とその政治的進歩をめざして、まず、歴史的崩壊の途にある社共、総評の基礎に分け入り、その革命的再編を果すべく奮闘することである。

④ 鈴木自民党政打倒を掲げる際に、重要なことは次のとおりである。まず最初に、第一次ブンドや第四インターのよう急速進民主義からする政府に対する政策反対闘争の延長上に、その自然成長性の上に、社会主義革命（アオイ国）の打倒ではなく、この政府打倒の延長上にブロ独（アオイ国）を展望するのではないこと。すなわち、この「アオイ」は決しておかねはならない。

第一の環 第二回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第三回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第四回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第五回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第六回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第七回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第八回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第九回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第十回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第十五回 反動革命の根本的三歩法

第一の環 第

8.26「政府見解」弾劾

問題書科教ないないして解決何も

侵略主義・民族排外主義の新たな挑戦状



9月6日市民・文化人200人が参加した(6面に報告記事)

八月二日、日本政府は宮沢宣房長官談話、小川文相記者会見の形で教科書問題への「政府見解」を発表した。それは「韓国、中国等の批判に十分に耳を傾け、政府の責任において是正する」(談話)とした上で、①今後の検定基準について検定審議会に諮問し改める②八年度検定に關する旨を反映させる(是正)ものである。

この「政府見解」は、第一に、「是正」は早くとも八五年度からとし、しかも朝鮮・アジア人民の史実をもつての糾弾に対し何をなぜ、どのように是正するのか全く不明であり、新たな居直りであること。

第二に、朝鮮人民の糾弾に対して、六五年の「日韓共同コミュニケ」一日韓交約の精神を尊重するとしたこと。だがそれは、一九〇一年以来の朝鮮侵略と植民地支配を「反省」するどころか「金法」であると居直った内容で

六月三十日、「人民日报」の「歴史をわい曲し侵略を美化している」七月二五日、「労働新聞」の「歴史に対する破廉恥極まりないわい曲」、八月五日、「韓国国会」の「是正要求」決議、そして東南アジア諸国へ。教科書書き換えを契機とした朝鮮・アジア人民の日本政府糾弾、反日闘争の嵐に対し、日帝・鈴木政府は八月二六日の「政府見解」—補足説明—九月九日中韓兩政府の「評価」表明によつて外交上の決着をみたと日本労働者・人民の闘いに水をさそうとしている。だが糾弾を「誤解だ」と居直る点に何の変更もなく、教育・思想の国家統制・検定制度の法制化、広域採択導入等の教育反動が、日教組への右翼テロ・日販労組の出版労連脱退といつた労戦の産報化を促進する攻撃と並行して強まつてゐる。闘いはこれからが正念場である。

六月三十日、「人民日报」の「歴史をわい曲し侵略を美化している」七月二五日、「労働新聞」の「歴史に対する破廉恥極まりないわい曲」、八月五日、「韓国国会」の「是正要求」決議、そして東南アジア諸国へ。教科書書き換えを契機とした朝鮮・アジア人民の日本政府糾弾、反日闘争の嵐に対し、日帝・鈴木政府は八月二六日の「政府見解」—補足説明—九月九日中韓兩政府の「評価」表明によつて外交上の決着をみたと日本労働者・人民の闘いに水をさそうとしている。だが糾弾を「誤解だ」と居直る点に何の変更もなく、教育・思想の国家統制・検定制度の法制化、広域採択導入等の教育反動が、日教組への右翼テロ・日販労組の出版労連脱退といつた労戦の産報化を促進する攻撃と並行して強まつてゐる。闘いはこれからが正念場である。

八月二日、日本は朝鮮を支配した

が、わが國はよいことをした

(65・1・7)と述べ、同じ時期に外相・椎名三郎はその著書『朝鮮と政治』の中で「朝鮮併合を日本帝国主義というなら、それは栄光の帝國主義である」と書いた。これらはこの間、日本が行つた数々の発言・態度と全く同じむき出しの侵略主義である。

第三に、朝鮮人民の糾弾に対し、六五年の「日韓共同コミュニケ」一日韓交約の精神を尊重するとしたこと。だがそれは、一九〇一年以来の朝鮮侵略と植民地支配を「反省」するどころか「金法」であると居直った内容で

は歴史までのい曲して

いる

即時是正要求を決議している。

パレスチナ人民新たなる長征へ

民族自決権を闘いとする条件と展望

いま、パレスチナ民族解放闘争は、米帝、イスラエル・シオニストの軍事侵攻と虐殺、アラブ諸国の沈黙のなかで、後退を示された。だが、幾多の歴史が証明したように、民族解放の火を消さることはできない。わ

PLO解体攻撃と「デービッド合意」

島返還と引きかえにエジプトがイスラエルと和平条約を締結する

米帝国主義・レーガン政権とイスラエル・ペギン政権の目的がPLO解体にあることは明白である。行き詰った「キャンプ・デービッド合意」と同じ米帝の和平力をアラブ各国に押しつけることである。

七八年九月の「キャンプ・デービッド合意」は、シナイ半島返還(引きかえにエジプトがイスラエルと和平条約を締結すること)とヨルダン川西岸地区におけるイスラエル支配下での「自治政府」樹立で処理し、両地区的領土の帰属は将来の問題として西岸地区の領有を主張するヨルダンを「合意」に引きこむというもの

評論

島返還と引きかえにエジプトが

イスラエルと和平条約を締結すること

である。

遂に、全土を握るがす統一アモを開いたのである。

特に、ルビンでは、三人以上の死者をだしつつ、連日四百日にわたる市街戦を闘いぬいた。

三日、ルビンのウォルチノ

ゼルスキ軍事政権は、前日から、「スト行は最高五年の禁固刑を科す」というが、

モ参加は最高十五年、デ

モ参加は最高五年の禁固刑を科す」というが、

モ参加は最高五年の禁固刑を科す」というが、